

平成24年度 精度管理調査報告会 細胞検査部門

精度管理事業部員
実務担当者
実務担当者

榊原沙知（豊橋市民病院）

橋村正人（国家公務員共済組合連合会名城病院）

成田 淳（厚生連 海南病院）

調査概要

参加施設

51施設

実施項目

フォトサーベイ

評価対象 10症例

評価対象外 2症例

評価基準

評価A	基準を満たし、 極めて優れている	正解
評価B	基準を満たしているが、 改善の余地あり	許容正解
評価C	基準を満たしておらず、 改善が必要	不正解
評価D	基準から極めて大きく逸脱し、 早急な改善が必要	不正解

- ・症例1～10の判定および推定病変について正解（許容正解）を設定し、評価した
- ・「上記以外の判定区分」を選択した場合は正解（許容正解）に準じた評価をした

出題症例

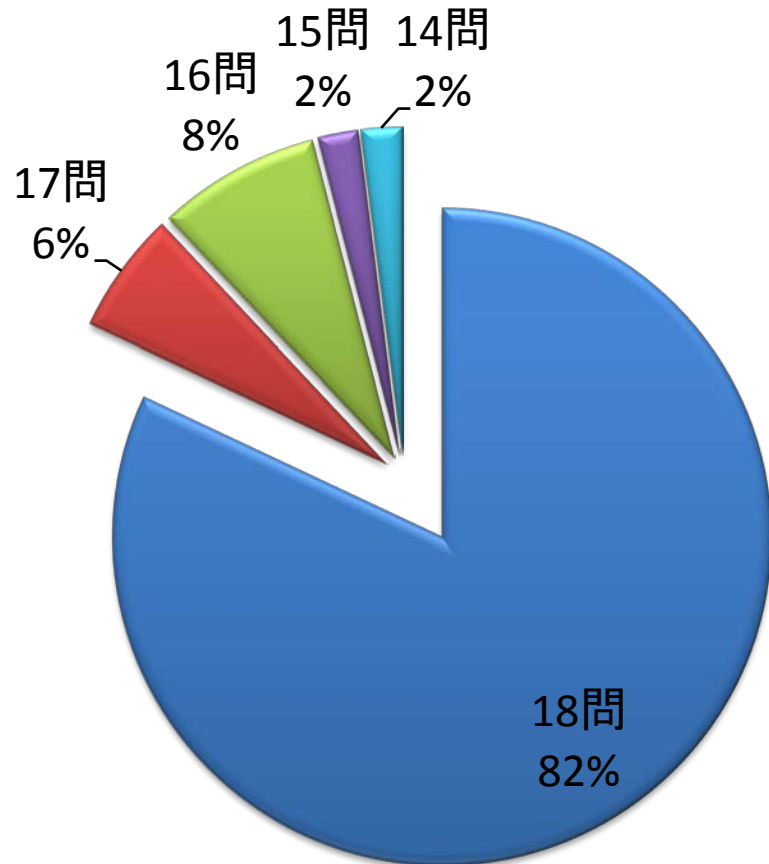
評価対象症例

	材料	推定病変		材料	推定病変
症例1	子宮腔部擦過	カンジダ感染	症例6	自然尿	尿路上皮細胞
症例2	子宮腔部擦過	高度異形成	症例7	甲状腺穿刺吸引	亜急性甲状腺炎
症例3	子宮内膜擦過	子宮内膜分泌期	症例8	乳腺穿刺吸引	乳管内乳頭腫
症例4	子宮内膜擦過	腺癌	症例9	耳下腺穿刺	ワルチン腫瘍
症例5	気管支洗浄液	腺癌	症例10	胸水	小細胞癌

評価対象外症例

	材料	推定病変
症例11	子宮腔部擦過 (液状化検体細胞診)	軽度異形成
症例12	子宮腔部擦過 (液状検体細胞診)	扁平上皮癌

結果



全問正解：42施設(82%)
17問正解：3施設(6%)
16問正解：4施設(8%)
15問正解：1施設(2%)
14問正解：1施設(2%)

評価対象設問18問の回答結果

各設問の正解率

	症例1	症例2	症例3	症例4	症例5
判定	98%	100%	100%	100%	94%
推定病変	100%	100%	98%	100%	96%

	症例6	症例7	症例8	症例9	症例10
判定	98%	100%	評価対象外	94%	98%
推定病変	94%	100%	評価対象外	94%	100%

各設問の正解率は概ね良好であった

症例8について

判定

	回答施設数	回答率
正常あるいは良性	51	100%

推定病変

	回答施設数	回答率
線維腺腫	21	41%
乳管内乳頭腫	30	59%

推定病変の正解率が59%であったため、今回は評価対象外設問として扱った。

評価対象外設問

評価対象外設問として液状化検体細胞診(LBC法)にて標本作製を行った婦人科症例を出題した。

【症例11】

判定

		回答施設数	回答率
クラス I	NILM	1	2%
クラス II	NILM	1	2%
クラス II	ASC-US	5	10%
クラス III _a	ASC-US	10	19%
クラス III _a	LSIL	25	49%
ASC-US		4	8%
LSIL		5	10%

推定病変

	回答施設数	回答率
表層型扁平上皮細胞	4	8%
扁平上皮化生細胞	2	4%
軽度異形成	45	88%

評価対象外設問

【症例12】

判定

		回答施設数	回答率
クラスⅣ	HSIL	1	2%
クラスⅤ	SCC	41	80%
ASC-H		1	2%
SCC		8	16%

推定病変

	回答施設数	回答率
高度異形成	1	2%
扁平上皮癌	50	98%

婦人科判定方法について

婦人科判定方法

■ クラス・ベセスダ併用 ■ ベセスダ単独 ■ クラス単独 ■ 無回答



クラス分類とベセスダシステムの併用: 41施設 (80%)

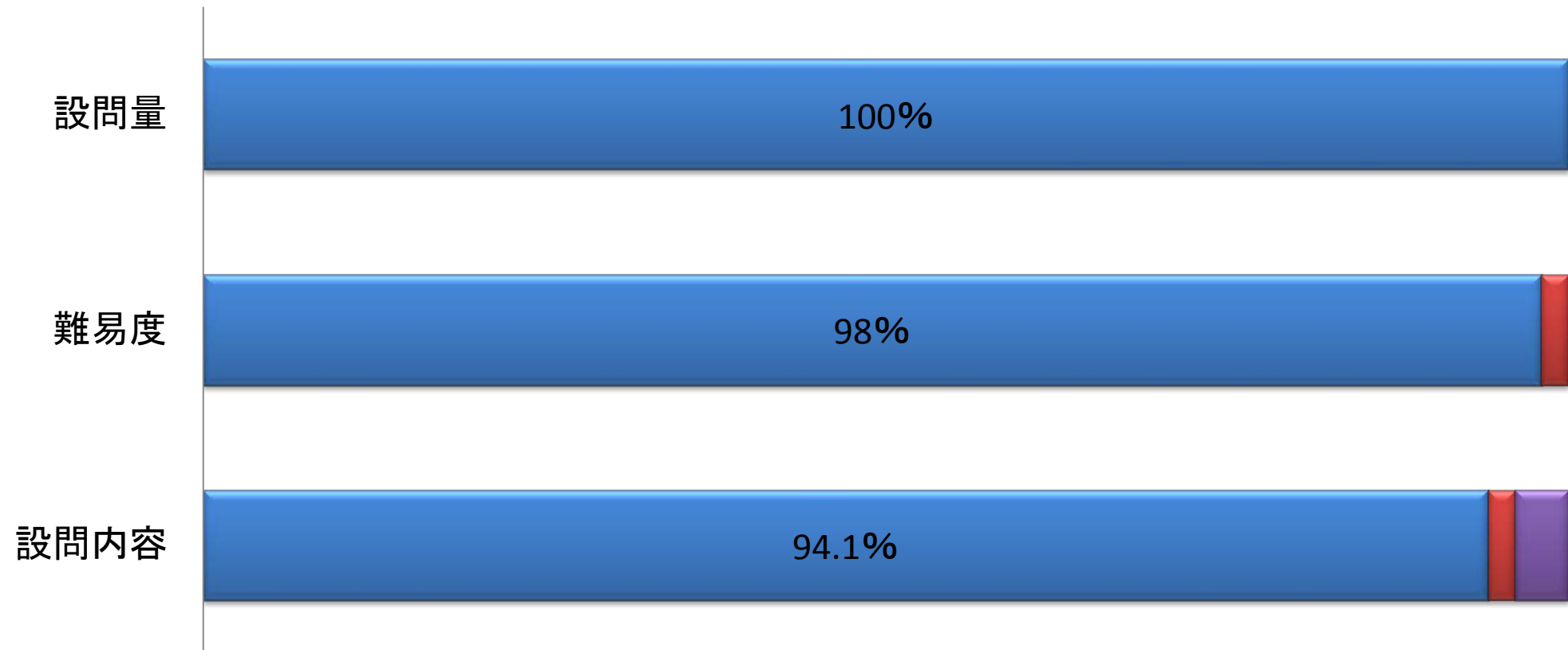
ベセスダシステム単独: 7施設 (14%)

クラス分類単独: 1施設 (2%)

ほとんどの施設は、ベセスダシステムを報告に取り入れていた。

アンケート結果

■ 適切 ■ 多い・難解 ■ 少ない・容易 ■ 無回答



まとめ

- 参加施設数は51施設で、昨年度と同数であった。
- 各設問の正解率は概ね良好であった。
- 症例8については回答が2分したため評価対象外設問として扱った。
- 評価対象外設問として出題したLBC標本症例については回答に若干のばらつきが見られ、今後の課題と考える。

結語

適正な細胞診断のためには

- ・多くの症例を経験する
- ・疾患の細胞所見を知る
- ・新しい知見などの情報収集

が重要である。

研究班主催の勉強会や研修会へ積極的に参加し、精度向上に活用していただきたい。